

新型コロナウイルス感染症の後遺症等の アンケート調査の結果について

令和2年11月



アンケート調査結果

目的：和歌山県における新型コロナウイルス感染者の退院後の症状や生活状況等を把握し、啓発や対策に繋げる

対象者：新型コロナウイルス感染者で9月14日時点で退院後2週間以上経過している者

方法：感染者の管轄保健所からの郵送若しくは聞き取り調査

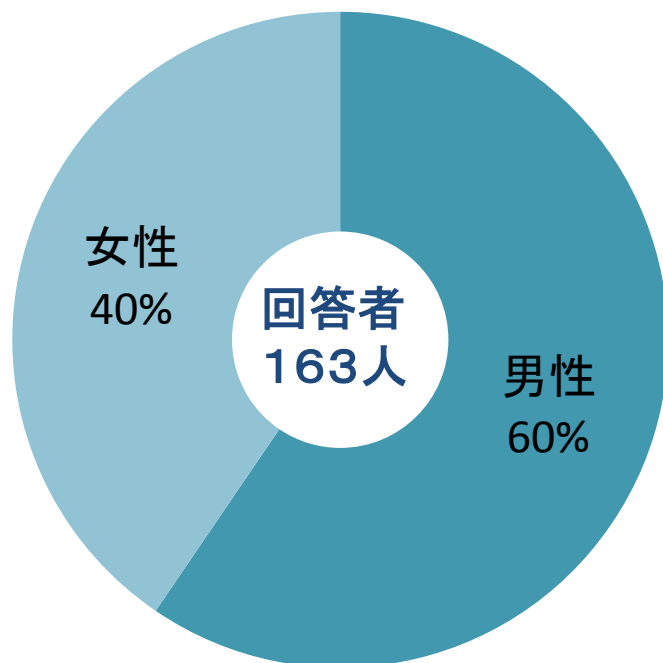
対象者数：216人

回答者数：163人 回答率：75.5%

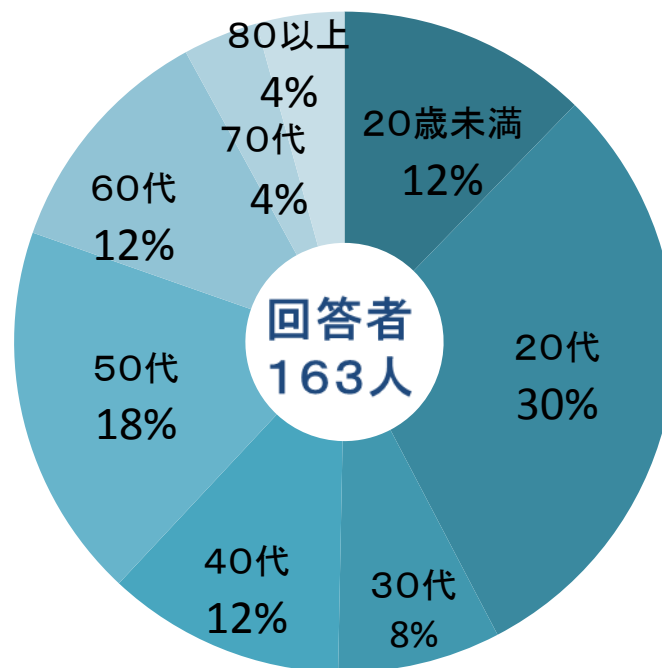
性別・年代別の回答者

- 回答者163人中、男性97人(60%)、女性66人(40%)であった。
- 年代別では、20代が最も多く、49人(30%)で、次に50代30人(18%)と多くなっていた。

【性別】



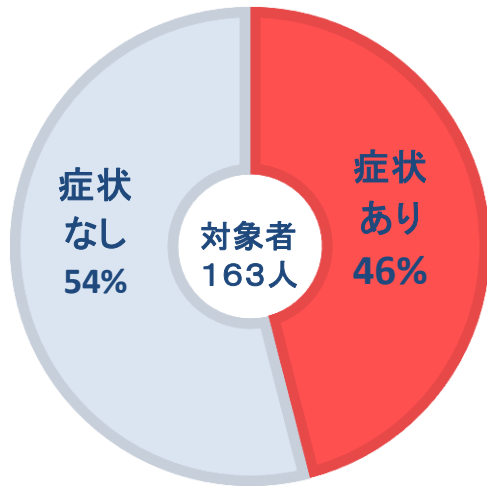
【年代別】



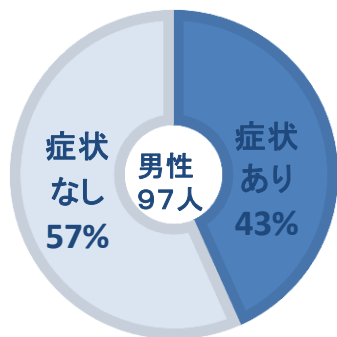
有症状者の状況

- 回答者163人中、何らかの症状がある人は、75人(46%)で、男性97人中42人(43%)、女性66人中33人(50%)であり、やや女性の方が有症状者が多かった。
- 年代別では、30代が最も有症状者の割合が77%と高く、40代～60代までが有症状者の割合が半数以上であった。20代以下でも30%以上に有症状者がいた。

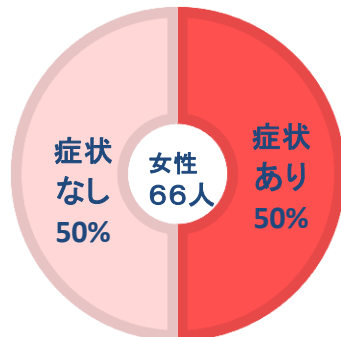
有症状者割合



男性

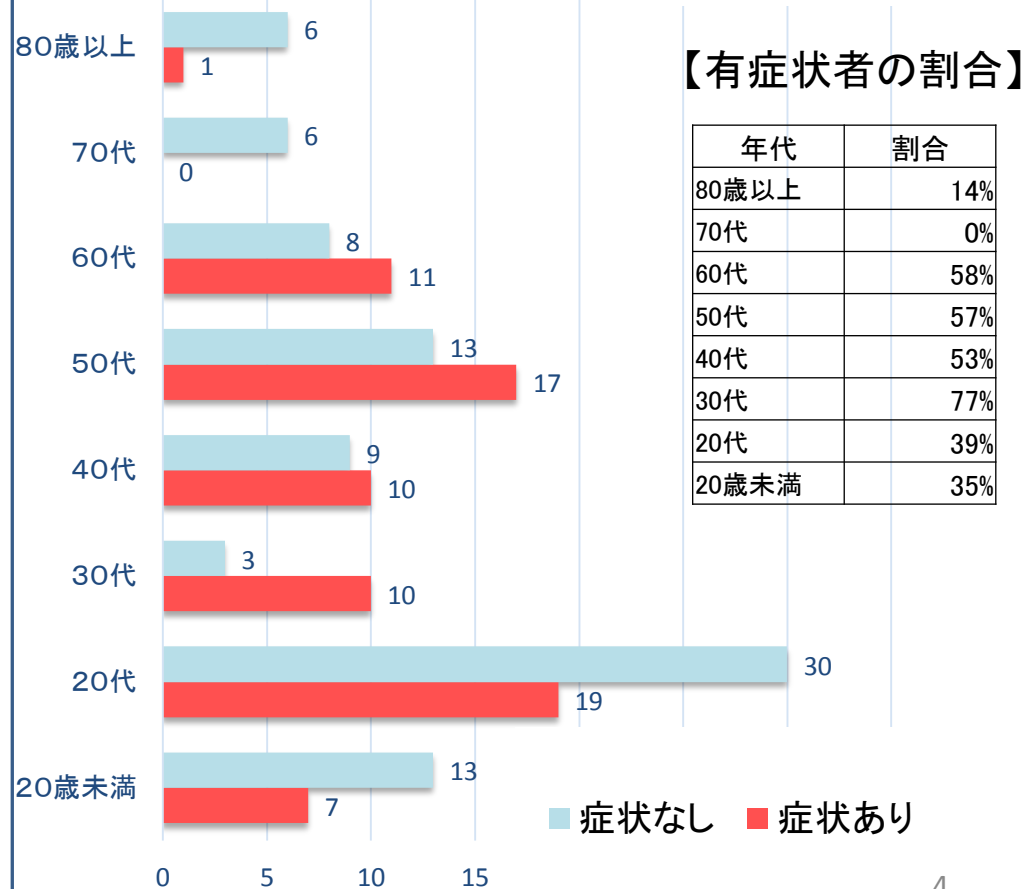


女性



年代別有症状者数

n=163



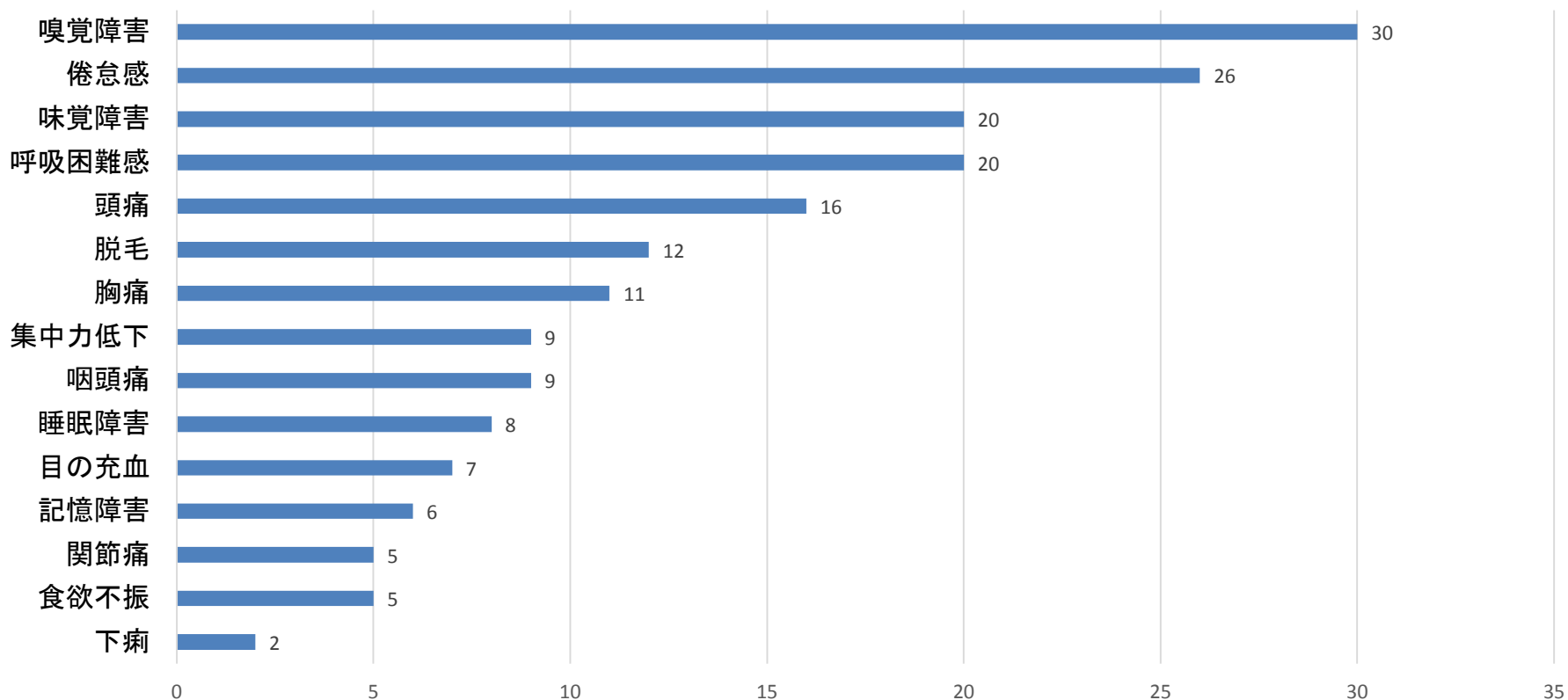
【有症状者の割合】

年代	割合
80歳以上	14%
70代	0%
60代	58%
50代	57%
40代	53%
30代	77%
20代	39%
20歳未満	35%

退院後の症状（全体）

- 退院後何らかの症状がある75人のうち、症状で最も多かったのは、嗅覚障害であった。続いて倦怠感、味覚障害、呼吸困難感が多かった。
- 脱毛が12人あり、集中力低下や睡眠障害、目の充血、記憶障害を訴える人もいた。
- 入院中、無症状で経過した人が退院後に倦怠感や集中力低下、記憶障害、目の充血を訴えていた。

退院後残存した症状別件数(重複回答あり)

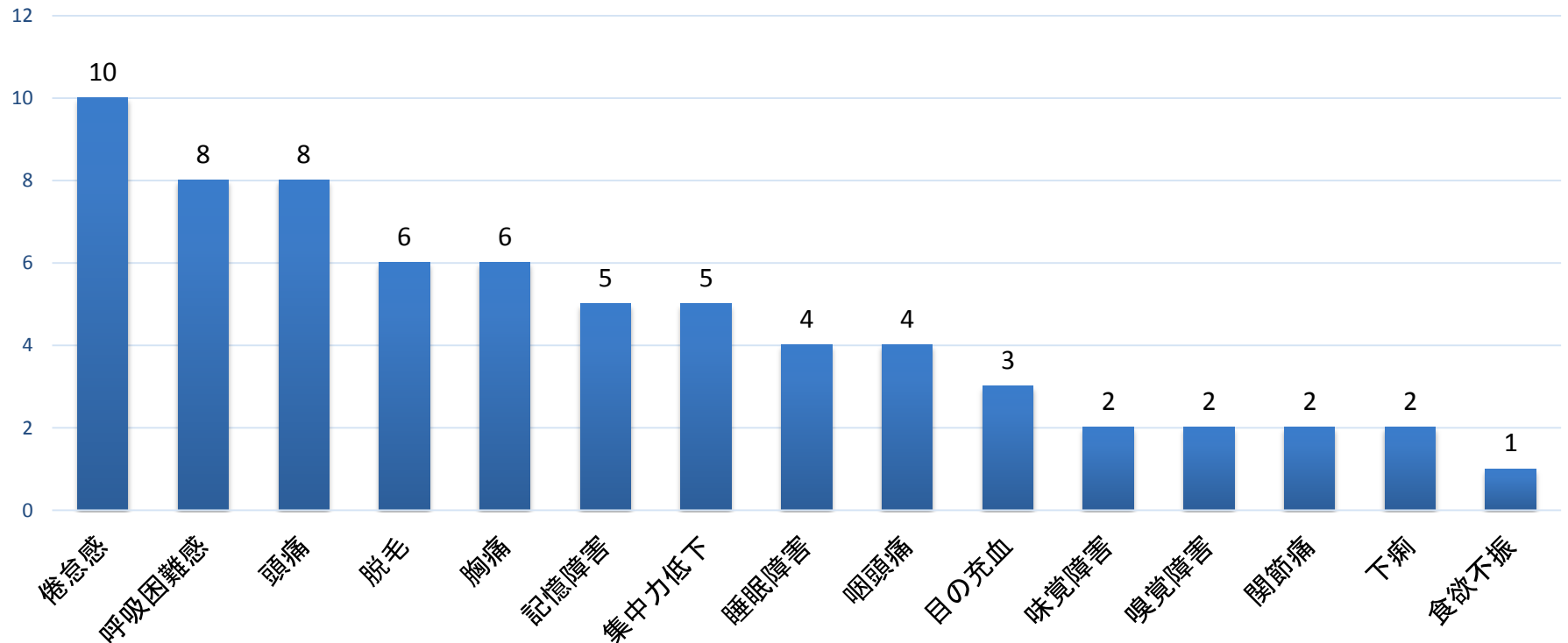


※その他、めまい、咳、微熱、体力低下、筋力低下、鼻の違和感、声のかすれ、舌や唇のしびれなど様々な症状があった

退院後の症状（6月末までに退院した者）

- 6月末までに退院した者で回答のあった51人で、9月14以降において残存している症状があると回答した者26人のうち、症状で最も多かったのは、倦怠感であった。続いて呼吸困難感、頭痛が多かった。
- 脱毛が6人あり、記憶障害、集中力低下や睡眠障害を訴える人もいた。
- 第一波では、入院中の経過でも味覚障害や嗅覚障害を訴える人は少なかったこともあり、これらの症状が持続している人は少なかった。

6月までの退院者で残存している症状(複数回答あり)

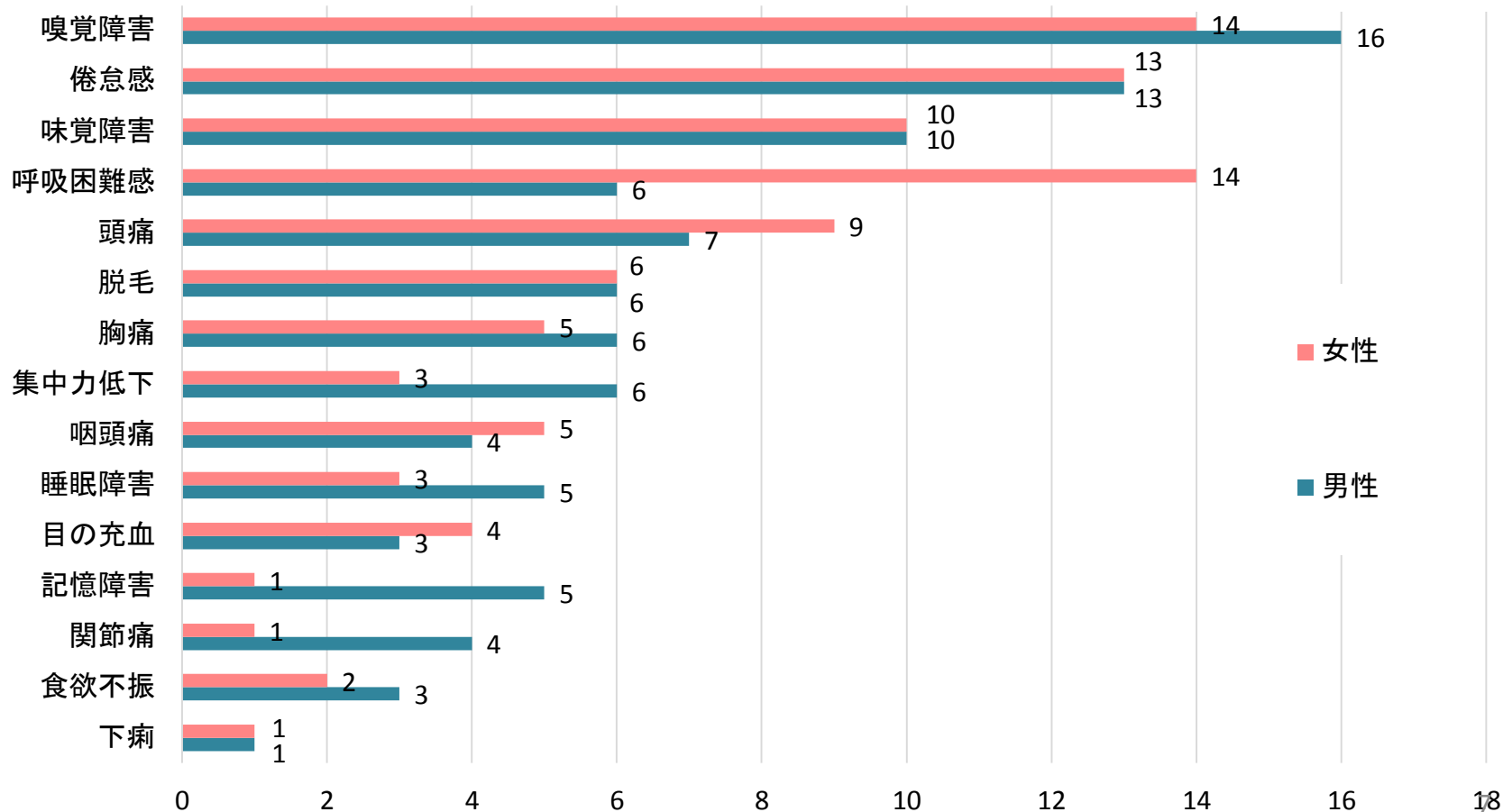


退院後の症状（性別）

- 退院後何らかの症状がある75人（男性42人、女性33人）のうち、倦怠感、味覚障害、脱毛は、男女同数だった。
- 呼吸困難感、頭痛は女性の方が多かった。
- 嗅覚障害、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は男性の方が多かった。

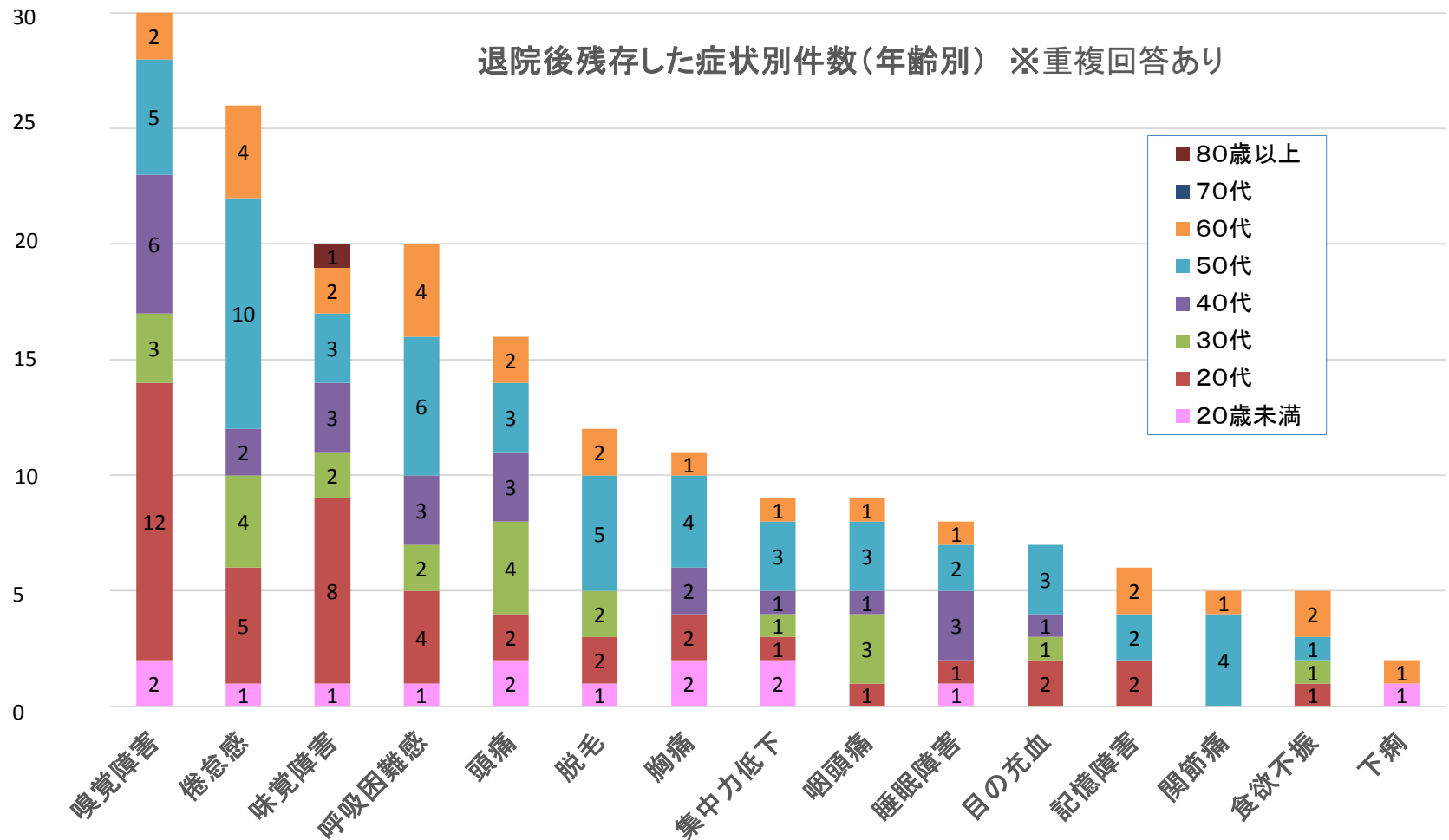
退院後残存した症状別件数（男女別） ※重複回答あり

男性42、女性33



退院後の症状（年齢別 ①）

- 最も多かった嗅覚障害では、20代が最も多く、次いで40代、50代が多かった。
- 味覚障害は、20代が最も多く、次いで40代、50代が多かった。80代でもあった。
- 倦怠感は、50代が最も多く、20代以下でも多かった。
- 呼吸困難感は、50代が最も多く、次いで20代、60代が多かった。
- 脱毛については、50代が最も多く、20歳未満、20代、30代、60代でもあった。



退院後の症状（年齢別 ②）

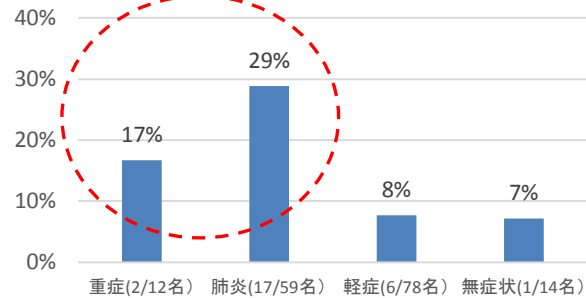
- 年齢別に症状を見ると、20歳未満では、集中力低下、頭痛、胸痛、嗅覚障害が多かった。
- 20代では、嗅覚障害が最も多かった。
- 30代では、倦怠感、頭痛が最も多かった。
- 40代では、嗅覚障害が最も多かった。
- 50代では、倦怠感が最も多かった。
- 60代では、倦怠感、呼吸困難感が最も多かった。
- 70代では、訴えが無かった。80歳以上では、味覚障害を訴える人が1人いた。

	倦怠感	呼吸 困難感	記憶 障害	睡眠 障害	集中力 低下	脱毛	頭痛	胸痛	関節痛	咽頭痛	目の充血	食欲 不振	下痢	味覚 障害	嗅覚 障害
20歳未満	1	1	0	1	2	1	2	2	0	0	0	0	1	1	2
20代	5	4	2	1	1	2	2	2	0	1	2	1	0	8	12
30代	4	2	0	0	1	2	4	0	0	3	1	1	0	2	3
40代	2	3	0	3	1	0	3	2	0	1	1	0	0	3	6
50代	10	6	2	2	3	5	3	4	4	3	3	1	0	3	5
60代	4	4	2	1	1	2	2	1	1	1	0	2	1	2	2
70代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	26	20	6	8	9	12	16	11	5	9	7	5	2	20	30

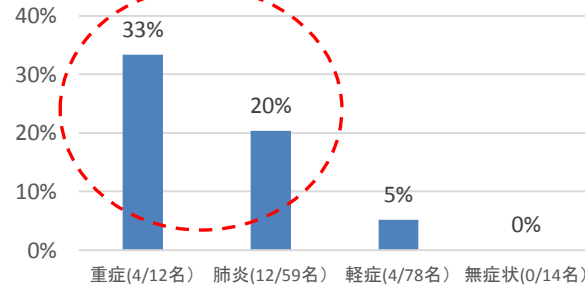
入院中重症度別 後遺症 ①

○ 退院後、肺炎以上の重症度のうち約2,3割の人において倦怠感や呼吸困難感が継続していた。また、胸痛も約1割の人にあった。重症者に関節痛が約2割と多かった。

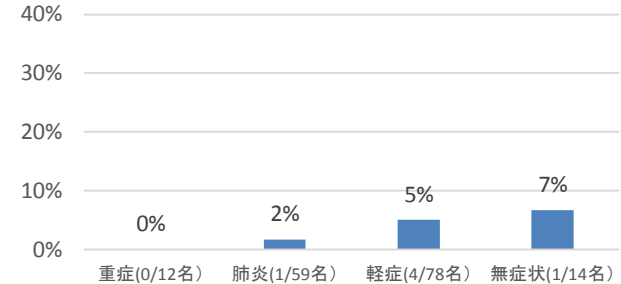
①倦怠感



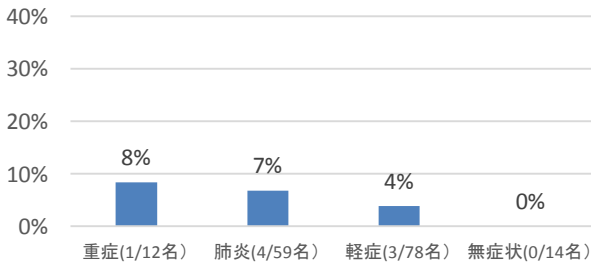
②呼吸困難感



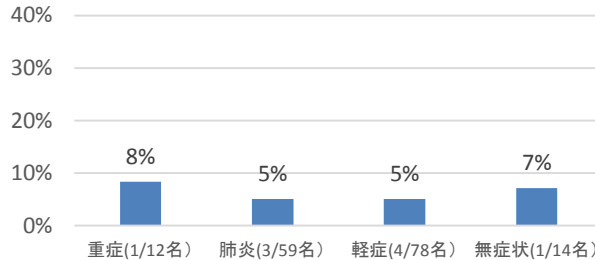
③記憶障害



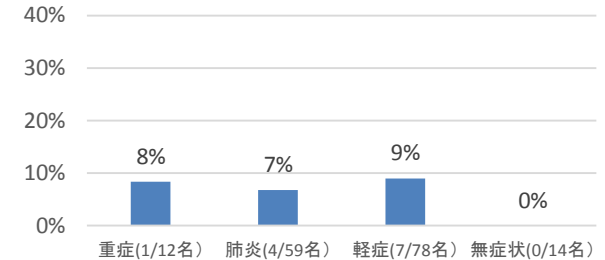
④睡眠障害



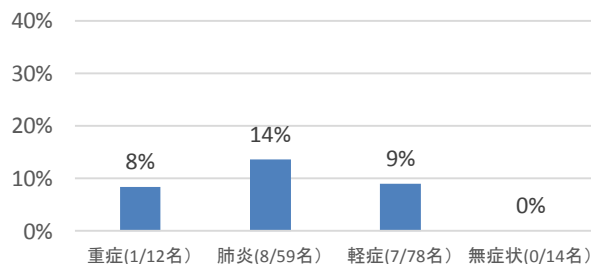
⑤集中力低下



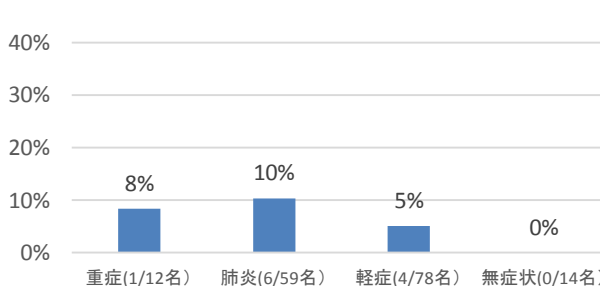
⑥脱毛



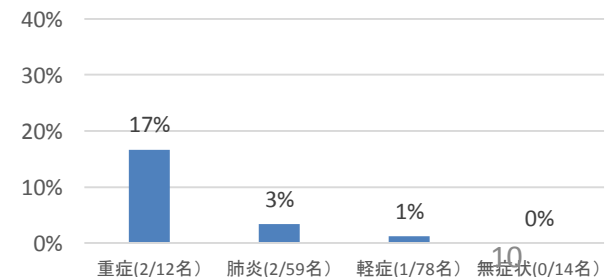
⑦頭痛



⑧胸痛



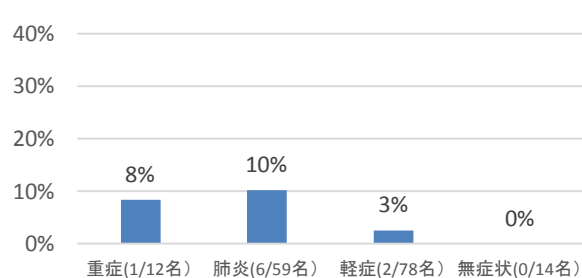
⑨関節痛



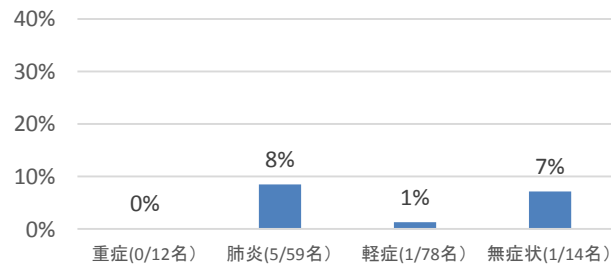
入院中重症度別 後遺症 ②

- 退院後、肺炎以上の重症度のうち約1割の人において咽頭痛が継続していた。食欲不振も重症者に多い傾向であった。
- 味覚障害、嗅覚障害については重症度に関わらず約2割の人に継続していた。

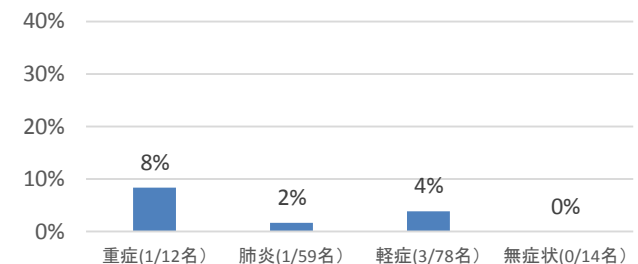
⑩咽頭痛



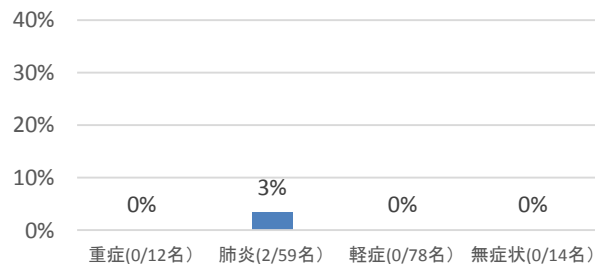
⑪目の充血



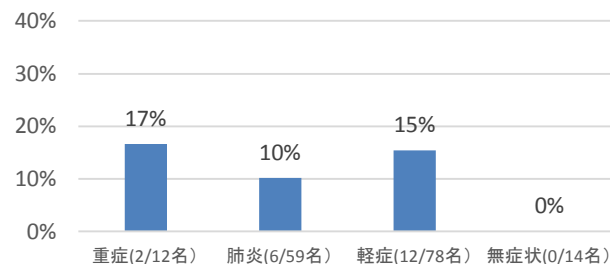
⑫食欲不振



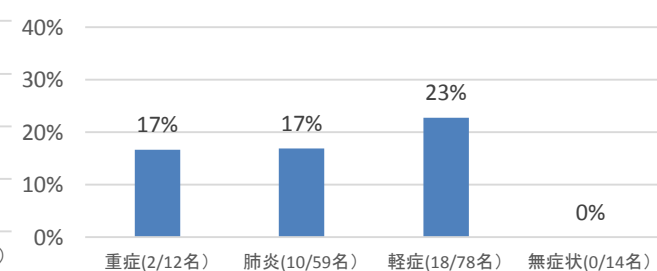
⑬下痢



⑭味覚障害

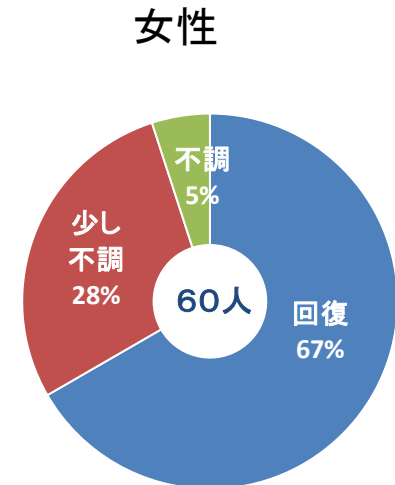
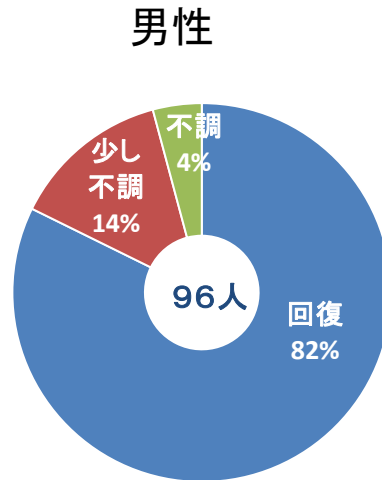
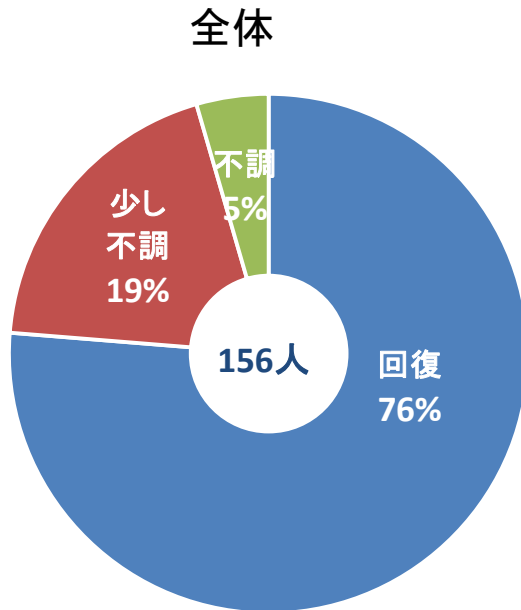


⑮嗅覚障害



退院後の回復状況（性別）

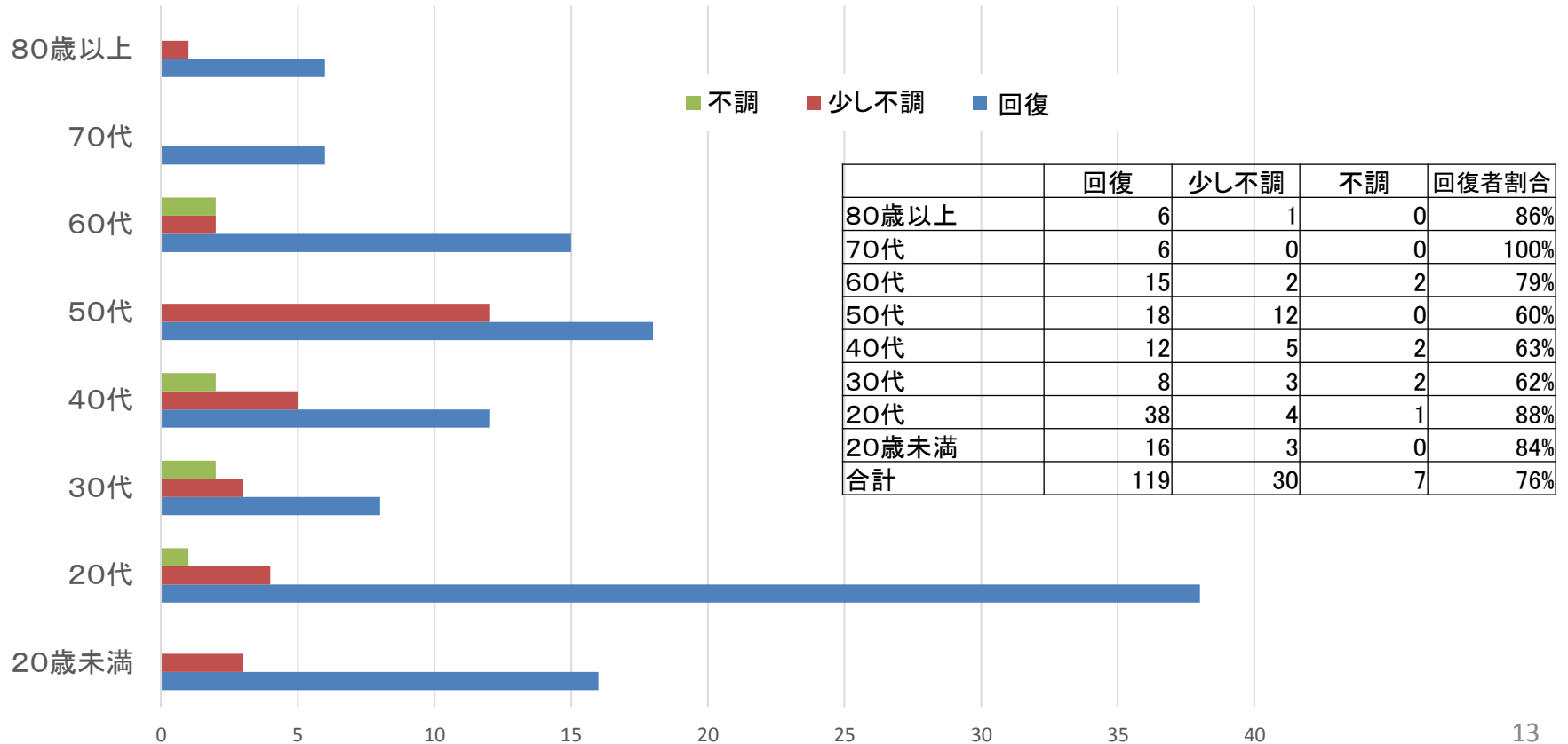
- 9月14日以降、退院後に体調が回復しているかどうかを聞いたところ、156人から回答があった。
- 全体では、回復しているが119人(76%)で、少し不調30人(19%)、不調7人(5%)であった。
- 性別では、男性96人中、回復しているが、79人(82%)、少し不調13人(14%)、不調4人(4%)で、女性60人中、回復しているが、40人(67%)、少し不調17人(28%)、不調3人(5%)であった。男性の方が回復しているが多く、女性では少し不調・不調が多かった。



退院後の回復状況（年齢別）

- 退院後体調が回復しているかどうかを聞いたところ、156人から回答があった。
- 全体では、回復しているが119人(76%)で、少し不調30人(19%)、不調7人(5%)であった。
- 年齢別では、回復していると回答した回復者の割合が高いのは、20代以下の若い年代と70代以上の高齢者であった。一方、30代～60代では、回復者の割合がそれらより低かった。特に、50代が回復者の割合が60%と最も低かった。

年代別からの回復状況

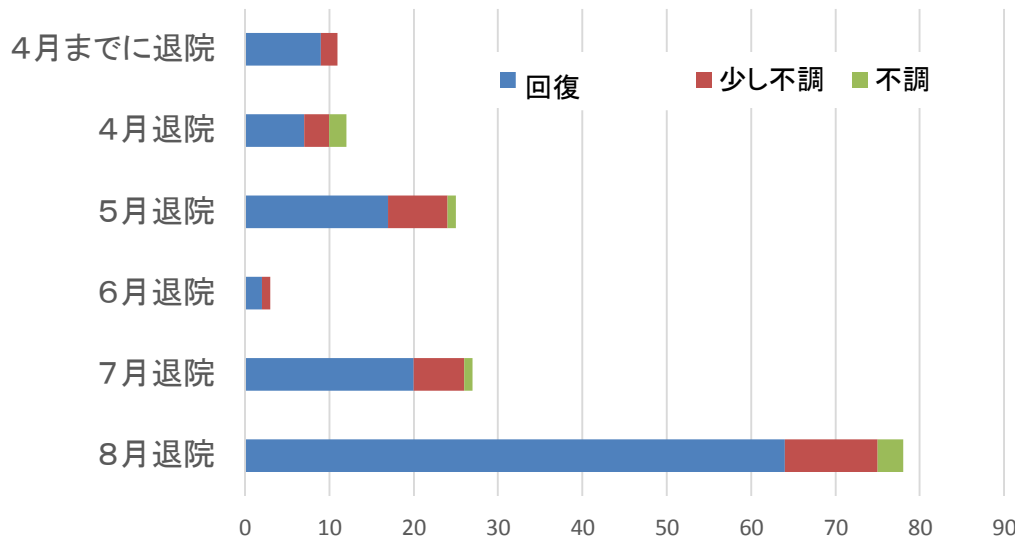


退院月別の回復状況

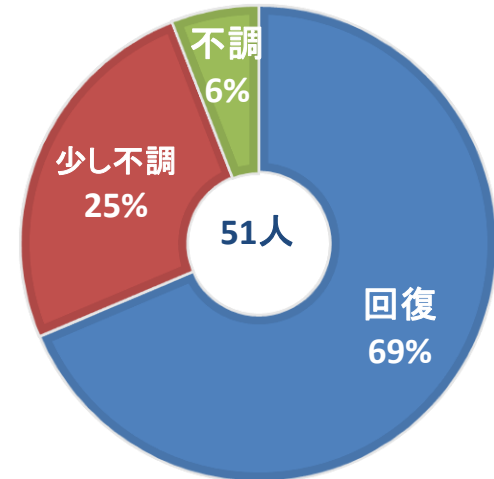
- 退院後体調が回復しているかどうかを聞いたところ、156人から回答があった。
- 全体では、戻っているが119人(76%)で、少し不調30人(19%)、不調7人(5%)であった。
- 退院月別では、回復していると回答した回復者の割合が高いのは、4月までと7月、8月退院者で4月～6月までの退院者の回復者割合は低かった。とくに、6月までに退院した者は退院後10週以上経っているが、体調が回復した者は69%となっていた。

月別退院者のからだの回復状況

n=156



からだの回復状況
(6月までの退院者)



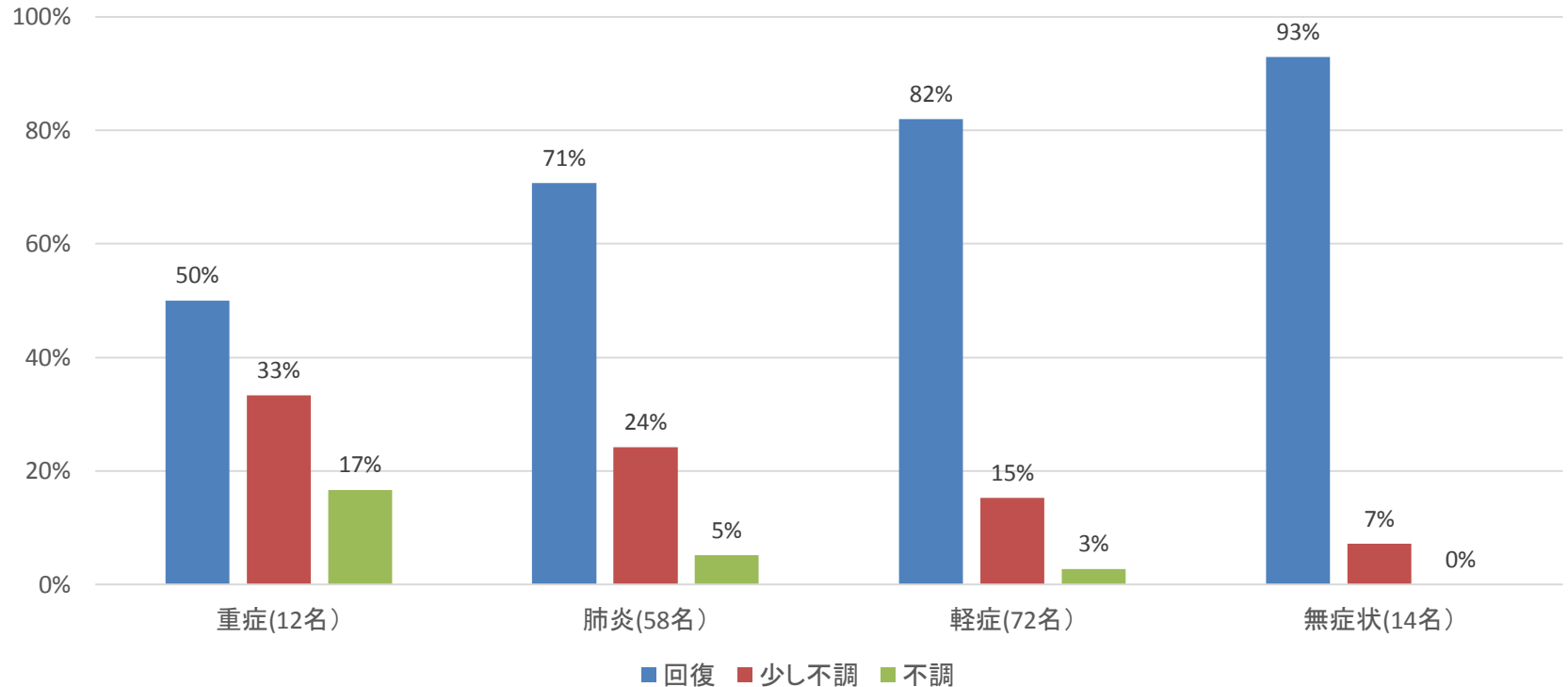
	回復	少し不調	不調	回復者割合
4月までに退院	9	2	0	82%
4月退院	7	3	2	58%
5月退院	17	7	1	68%
6月退院	2	1	0	67%
7月退院	20	6	1	74%
8月退院	64	11	3	82%
合計	119	30	7	76%

	回復	少し不調	不調	回復者割合
6月までの退院者	35	13	3	69%

入院中重症度別の回復状況

- 退院後体調が回復しているかどうかを聞いたところ、156人から回答があった。
- 入院中肺炎を併発したり、重症以上では、体調が回復した人が軽症・無症状に比較して少なく、不調者が多い。
- 無症状で経過した人でも退院後、少し不調と回答した。

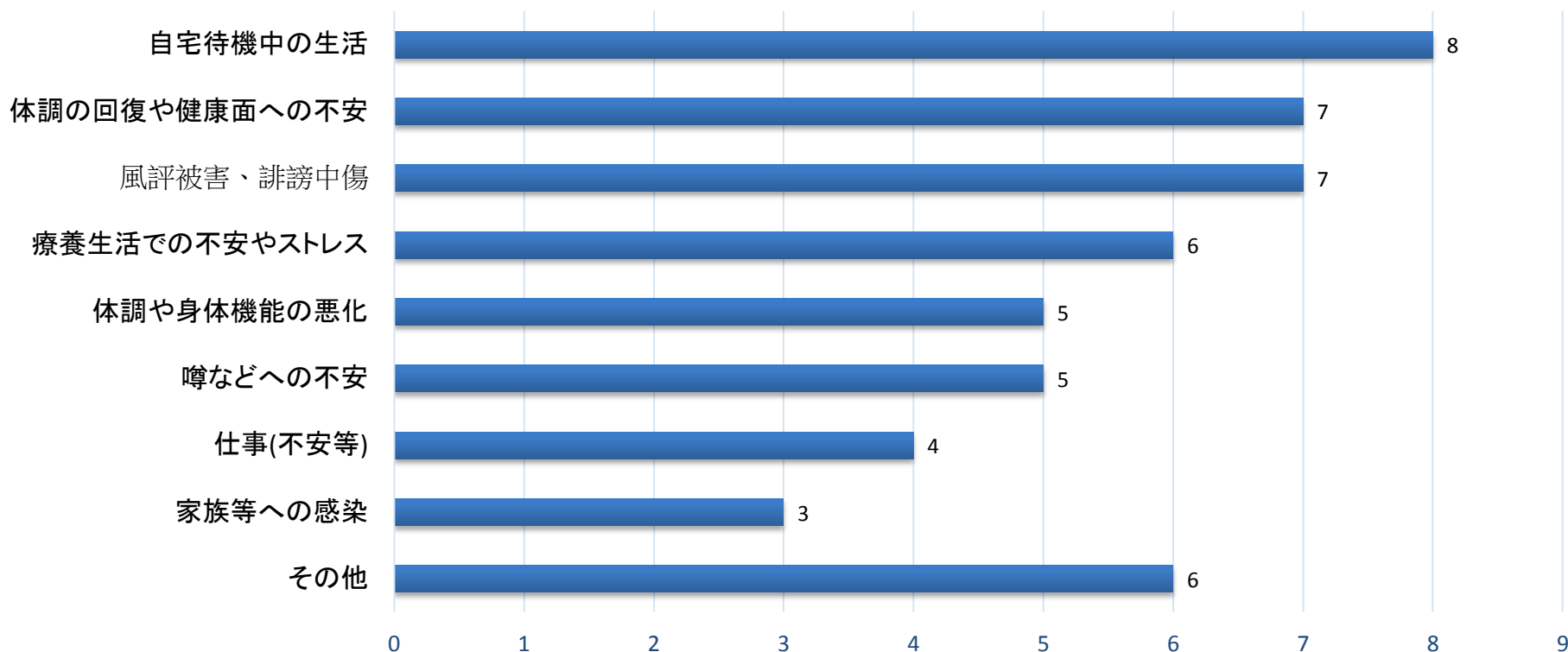
現在の健康状態



療養生活中や退院後の生活において困ったこと（重複回答あり）

○ 退院後の療養生活やその後の生活の中で困ったこととして、自宅待機中の生活、体調の回復や健康面への不安、風評被害、誹謗中傷が多かった。生活の不安やストレス、噂への不安など精神面での不安を抱えていたことがわかった。また、身体的悪化や仕事についても不安をもっていた。

療養生活中や退職後の生活において困ったこと(重複回答)



※その他： ・外出がほとんどできなくなった ・「ソーシャルディスタンス」などの言葉を聞くだけでイライラする
・軽症であれば自宅療養ができればよかった ・病院と保健所の情報が違うことで戸惑った
・将来生活への不安 ・金銭面で困っている等

※風評被害、誹謗中傷： ・近隣でうわさが流れていた ・あることないこと言いふらされた ・身に覚えのない情報等がSNSに書き込まれた
・仕事関係者から特別な目で見られた ・家族が職場でいやがらせを受けた等

まとめ

- 和歌山県における新型コロナウイルス感染者の退院後の症状や生活状況等を把握し、啓発や対策に繋げることを目的に、9月14日時点で退院後2週間以上経過している者216人を対象に、調査を行ったところ、163人（75.5%）から回答を得た。
- その結果、いわゆる後遺症と考えられる様々な症状がある者が約半数おり、脱毛、集中力低下などの症状もあった。女性の方が男性より有症状者が多く、働き盛りの年代で有症状者が多かった。また、若くても嗅覚・味覚障害等が継続しており、肺炎を併発した者では、呼吸困難感、倦怠感が継続していた。高齢者では継続する症状を訴える者は非常に少なかった。なお、入院中は無症状で経過した人が退院後に倦怠感、集中力低下などがあったと答えた。
- また、体調の回復度は、退院後2か月以上経過していても約3割の者が回復していないと答え、入院中の重症度が高かったほど回復者の割合が低かった。高齢者では体調不調を訴える者も少なかった。
- 退院後の療養生活やその後の生活の中で困ったこととして心身面の不安以外に風評・誹謗中傷があった。
- この結果から、たとえ、軽症で経過したとしても様々な症状が持続していることから、新型コロナウイルス感染症に罹患しないよう予防を啓発することが重要であるとともに感染者の心身面での継続した支援が必要であると考える。
- 今回の調査では、症状の持続期間が正確に捉えることはできなかった。退院後の症状がどのような機序で起こるのかなど研究成果が待たれる。今後、必要に応じてさらなる調査を行うことを検討する。